

# 国 語

## 注 意

1. 問題は全部で18ページである。
2. 解答用紙は(その1)(その2)がある。(その2)はマーク・シートになっている。
3. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。(ただし、マーク・シートにはあらかじめ受験番号がプリントされている。)
4. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
5. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
6. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

### マーク・シート記入上の注意

1. HBの黒鉛筆またはシャープペンシルを用いて記入すること。
2. 解答用紙にあらかじめプリントされた受験番号を確認すること。
3. 解答する記号・番号の○を塗りつぶしなさい。○で囲んだり×をつけたりしてはいけない。

解答記入例(解答が1のとき)

1	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5	<input type="radio"/> 6	<input type="radio"/> 7	<input type="radio"/> 8	<input type="radio"/> 9	<input type="radio"/> 0
---	----------------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

4. 一度記入したマークを消す場合は、消しゴムでよく消すこと。×をつけても消したことになる。
5. 解答用紙をよごしたり、折り曲げたりしないこと。

— 次の記事を読んで、後の問に答えよ。

村を歩いていて、それは石に特別な興味をいだいているわたしだからそう思うのかも知れないが、日本民俗学という学問がその出発にあたって、山でもなければ木でもない、石をえらんだことには、たしかに何か偶然以上のものがある。

しかし、いざ石がよびさまざま感動を正確な言葉でとらえようとすると、わたしたちは打ち克ちがたい困難に出会うというの  
も、また事実である。その感動といおうかその感覚は身体を通りぬけていくヴァイブレーションのようなものとして、もともと  
言葉の構造とはあいられない異質な体験の層にぞくしているのです、わたしたちにせいぜいできることといったら適切な修飾語、  
適切な隠喩メタファーをみつけることぐらいなのかも知れない。そのため、石との交感の場は、同時に言葉<sup>a</sup>意味的なものとのせめぎあ  
いの場となってきた。

ここでは形状石と呼ばれる不思議な石の場合について考えてみることにしよう。石に生物の姿を認め、石と生物との間の隠れ  
た関係がみいだされた時、亀石、蛇石、牛石、ピク石などの名前をもつ形状石がうまれる。この場合、類比(アナロジー)の働き  
のために、生物／非生物の境が越えられてしまい、ほとんど神聖感に近い不思議な感情がよびさまされるものだが、この感情の  
よつてきたところが、掛け言葉という言葉あそびの場合によく似ているといったら、多少唐突にすぎるだろうか。じつさい、  
掛け言葉は、ある言葉が表の意味のほかにもう一つ別の、あるいは複数の裏の意味をもつように仕組まれている。そこで、ふだ  
んはかけ離れた場所に置かれて、とうてい両立しがたいと思われた意味の場が不意に結合されてしまい、その結果、表の意味は  
<sup>b</sup>スツコケてとたんに言葉の世界は遊びにみちた多義的空間に変貌してしまうのである。掛け言葉の場合、離れていたものを無媒  
介的に結びつける「隠れた関係」は、音の共通性によつている。これとよく似たプロセスで、形のなかに潜む隠れた関係をみいだ  
そうという誘惑が石にふりむけられる時、不意に生き物というカテゴリーに接触したことで、石は動物みたいに身をよじり、う  
ねりはじめたような奇妙な感動をあたえるようになる。

しかし、この遊びめいた精神の仕組みは、宗教的感性へのとば口でもある。それはこんな話によく示されている。津軽を旅していた民俗学者の早川孝太郎は、龍飛岬で二つの小石を拾うが、それはこの地で聞いたイタコの話がそう促したからであった。「あの地方に今ある巫女達が、その信仰に入る過程として、浜の波打際などを歩いて居て或石に邂逅する。数ある中には特に犬とか猫又は猿などの貌を現わして居た物がある。それを獲た次の瞬間から精神状態も異常を加えてくる。一方から云うと石が喚びかけて居たのである」。巫女は霊界の声を生きている者たちに伝えることのできる特別な能力にめぐまれて居る。その入巫(イニシエーション)の決定的瞬間が、小石との邂逅によつてもたらされるというのである。ある小石のなかに、犬や猫や猿など生命あるものの姿が見えた、と思うその瞬間から、イタコにはこの世界が常の人に見えるのとは違つた相貌でたちあらわれ、物と物、現象と現象、物と現象を結びあわせている見えない糸のようなものが感知できるようになつて、物や現象を分け隔てた上で統合するという常のありようとは異なる、生命の交感にみちた別の世界が開けてくるのであらう。

知覚や思考の習いがぐらつく意識のハクメイの領域は、また説話への欲望がめざめる地点でもある。野本寛一が『石の民俗』で紹介している清水市牛ヶ谷桃林寺の裏手にある牛石には、次のような五つの異なる伝承が語られているそうだ。その一つは、桃林寺の伝える縁起譚である。四百有余年以前、駿州道日山に修行中の道日禅師のもとに一匹の黒い牡牛が現われ、禅師もこの牛を愛した。この牛が後年死んだ時、村人はこの牛を山を越えた葬地にはこぼうとするが、途中で余りに重くなつたためどうすることもできず、その地に葬つた。これが現在の桃林寺のある土地である、というもの。この話などは、眼の前の石に実現されている生命あるものとなしいものの共存(共時的共存とでも言おうか)を、生きていた牛が死んで石に化するという時間にそつた論理に組みかえなおして、すこしでも理解できる方へ近づけようとしている。もう一つの伝承はほほ前の話と重なり、後半部に輪廻譚や法力譚などをつけて、いつそう合理的な話にしたてている。三つめの話では「昔、石屋がこの石に鑿たがねを入れたら血がほとばしり出たので、祟りを恐れてお宮を作り、牛石として祀つた」という、牛石を見た感動をさらに具体的なイメージにおしひろげたものになつている。四つめの伝承によると、「この牛石は、梶原景時の墓石を運ぶ時死んだ牛がなつたものである」といい、五つめのものは「里老伝、此石は雌石なり、梅ヶ谷牛欄寺の牛石は雄牛なりと、されど何なる縁故ありて、此雌雄の牛石あり」という

雌雄対石譚である。このうち、一つめ、二つめ、四つめの伝承はある種の論理性のうちに知覚を回収しようとしているようにみうけられるが、それに対して三つめ、五つめの話では h 説話への衝動は、いずれの場合も知覚の遊走性を意味世界に固定しようという方向に働いている。

ここからさらに、石が呼びおこすイメージの運動が、社会的にも重要な意味世界の体系に回収される、つまり善と悪、生と死、豊饒と i、内と外、自然と文化など二元論的思考のあやなす文化機構のうちに捕獲されるようになる過程を考えることができるようになる。

(中沢新一『チベットのモーツァルト』による)

問一 傍線部 a「せめぎあいの場」とあるが、その説明として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄

番号は 1。

- ① 多くの石がそれぞれの個性を持って存在し、互いに拮抗していることを、象徴的な形で示している。
- ② 石を獲得するためには歴史的に多くの戦闘が行われてきたので、そのことが大きな影響を与えてきた。
- ③ 石を得ることによって、その石との対話が発生してくるといふ側面があり、その石との対話によって多くのものがもたらされた。
- ④ 多くの石が存在していることの比喩であるので、このような表現が生まれてきている。
- ⑤ 石のもたらす感動は、言葉では表現しにくいものであるだけに、それを言語で表現することは、複数の要因を考慮しなくてはならない。

問二 傍線部b「ズッコケて」とあるが、ここではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。

解答欄番号は 2。

- ① 二つに分裂して
- ② 表面から消え去って
- ③ 強く結合して
- ④ 変化して音となり
- ⑤ 異なった世界に没入して

問三 傍線部c「宗教的感性」とあるが、これとほぼ同様な意味を表す最適な語句をこれよりも前の文中から探し、十字以上十五字以内で抜き出せ。解答用紙(その1)を使用。

問四 傍線部d「邂逅」とは一般的にはどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 3。

- ① 解釈
- ② 宥和
- ③ 出合い
- ④ 結合
- ⑤ 現れ

問五 傍線部 e「物や現象を分け隔てた上で統合する」とはどういうことを言っているのか。最適なものをお次の①～⑤から選ぶ、

その記号をマークせよ。解答欄番号は 4。

- ① 多くの事柄をよく理解した上で行動に移す。
- ② イタコの知覚と通常の人々の知覚を区別する。
- ③ ひとつの物体を部分の集合として認識する。
- ④ 現実世界を分析してから改めて結合する。
- ⑤ 犬や猫や猿などが石の中に見えてくる。

問六 傍線部 f「ハクメイ」を適切な漢字で記せ。解答用紙(その上)を使用。

問七 傍線部 g「輪廻譚」とはどういう意味か。最適なものをお次の①～⑤から選ぶ、その記号をマークせよ。解答欄番号は 5。

- ① 因果応報の理についての教義
- ② 別の世への生まれ変わりに関する説話
- ③ 大きなものが回転する状態の解釈
- ④ 仏法が広まることへの期待
- ⑤ 車で物を運搬することの説明

問八 空欄 h に入る適切な文はどれか。最適なものをお次の①～⑤から選ぶ、その記号をマークせよ。解答欄番号は 6。

- ① 知覚は人間化されたイメージや意味のなかに組み入れられている。
- ② 知覚は近代的な装いによって覆い隠されている。
- ③ 知覚は動物の鳴き声などを連想させるものとなっている。
- ④ 知覚は多くの要素のうちのひとつに過ぎないものとして描かれている。
- ⑤ 知覚は理解しがたいものとして無視されている。

問九 空欄

i

に入るべき単語は何か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は

7

- ① 未 遂  
② 欠 落  
③ 不 毛  
④ 衰 弱  
⑤ 微 細

二 次 の 文 章 を 読 ん で 、 後 の 問 に 答 え よ 。

初期の写眞家たちが、一種の歴史画としての肖像画を模倣しつつ、ポートレートを撮影したことには決定的な意味があった。カメラ自体の希少性からして、写眞撮影は、まだ決して日常的な行為ではなかった。被写体にとつても、鑑賞者にとつても、そこに写し出された姿は、とある偶然の一瞬ではなく、まさしく肖像画のように、対象を一回的に、決定的に象徴するものでなければならなかった。

彼らは、写眞に表れたフィギュールが暴力的に自らを同一化してしまうことを、肖像画とのアナロジーから十分に理解していたに違いない。主体の揺らぎが抑圧され、近代的な自我の収斂が進みゆく社会の中で、写眞のフィギュールは被写体を無理なく排他的に独占した。彼らは死後の自己像が、完全に写眞の中のフィギュールへと固定され、また自身の不在の場所で、写眞が勝手に自己像に成り代わる事態を想像した。そうした彼らが、写眞のフィギュールに理想的な自己像を写し撮る必要を感じたのは当然の成り行きである。

他方で、写眞が捕獲した静的な瞬間こそが、肉眼が常に取り逃がしている、移ろい易い世界の真の姿だという考えは、写眞と現実との視覚上の序列化を促し、写眞に内在する被写体との同一化の欲望を後押しした。湛えられた牛乳に一滴のしずくがしたたった時、人はそこに王冠のような飛沫が上がるのを、写眞で見初めて知った。そして、それこそが出来事の真相であると信じたのである。この時、被写体となる人物は、殆ど常に理想化された自己像をそのフィギュールに求め、写眞家はむしろしばしば、ありのままの姿をこそ求めた。いずれも、鑑賞者が、それを真実と受け止めることを念頭に置いてである。被写体の願望に飽くまで忠実に、その美的に理想化された姿を撮影しようとする際にも、写眞家は、多かれ少なかれ、一種のシニシズムを抱え込まなければならなかったであろう。

この時、こうした欲望の交錯点で、猶も写眞がそれ自体としては中立的であり、真実であると信じられ続けた理由の一つは、カメラという機具の不如意のせいである。取り分け、撮影から現像に要するまでの時間は、撮影機会を過去へと向けて一回的に遠ざけ、その上でしばしば被写体、撮影者、鑑賞者の各々の欲望をつれなく裏切った。その意外さの故に、写眞を嫌う者もあれ



ば、殆どそれだけを以て写真の魅力とする者もある。無論、その不如意の感覚は、翻つて、写真に表れたフィギュールを、たまに写し取られた一瞬の形姿に過ぎないとする考えへと人々を傾かせる理由ともなった。

今日のデジタル・カメラの爆発的な普及とその利用とは、こうした150年ほどの写真史的風景の殆どパロディのような様相を呈している。街角のプリクラからカメラ付携帯電話、手ブレ防止機能付のコンパクト・カメラ、更には一眼レフに至るまで、一般に、私たちが撮影する写真の数量は、この10年足らずの間に飛躍的な増加を遂げているであろう。そして、私たちの過去は、ますます密に写真によって埋められつつある。

撮影機器のデジタル化は、液晶モニターによる写真の即座の確認を可能とし、現像時間が困い込んでいた撮影者及び被写体の欲望のアンタツチャブルな領域を遂に明け渡させた。私たちは、対象を写真に収めては、「シャッター・チャンス」の首に紐を付け、一時それを繋ぎ止めておく。そうして内容を確認し、意に沿わなければ、或いはカメラを調整し、或いは被写体に手を加えて、何度でもシャッターを切り直すのである。

メモリー・カードの大容量化は、一回の撮影に於けるシャッター回数を増加させ、誤つて不本意な形姿を捕らえてしまった時には、ザコを釣り上げてしまったように、その場でその「瞬間」を過去へと逃がしてやる。それは、保存され、自己像と同一化されるべきではないフィギュールというわけである。

デジタル処理技術の進歩は、更に、捕獲された「瞬間」に、あとから自在に手を加えることも可能とした。被写体の顔からホクロやシミを消すことは疎か、目を大きくし、顎のラインを削り、髪を別の誰かのものと取り替え、肉体を継ぎ接ぎし、背景から自在に事物を消失させ、或いはつけ加える。「写真に於いては、事物が、か、つ、て、そ、こ、に、あ、つ、た、と、い、う、こ、と、を、決、し、て、否、定、出、来、な、い」(ロラン・バルト)という、つい最近までは誰も疑うことのなかった確信は、今や大きく動揺している。

(平野啓一郎『モノログ』による)

(注)

\*フィギュール——フランス語で「形」や「画像」の意味。

問一 傍線部 a「無理なく排他的に独占した」とあるが、どういふことか。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 8。

- ① 写真と被写体の同一性によって肖像画がまったく不要になってしまったこと。
- ② 近代的社会において、写真を撮ることのできる人が、肖像画の市場を独占したこと。
- ③ 写真と自己とが不可分なものとして本質的に一体化したこと。
- ④ 写真に収められた姿のみが真のその本人の姿であると信じられたこと。
- ⑤ 日常的ではなかった写真撮影がごく普通に行われるようになったこと。

問二 傍線部 b「視覚上の序列化」とあるが、どういふ意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 9。

- ① 写真に写った被写体に関して、いわゆる遠近法的なとらえ方ができるようになったこと。
- ② 肉眼では捉えられないものが写されているため、写真の方がより上位に位置すると考えたこと。
- ③ 現実こそが写真の基盤にあるものであるというあたりまえの事実が明確になったこと。
- ④ 理想的な現実と、写真に写された画像との区別がなくなってしまったこと。
- ⑤ 写真撮影の日常化によって、肉眼で見えるものこそが第一であるということを認識できるようになったこと。

問三 傍線部 c「シンシズム」とあるが、これは一般的には「冷笑主義」と訳される。ここでは具体的にはどのような意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 10。

- ① 理想化した自分の姿を求める被写体の願望とはうらはらに、写真は真の姿しか撮れないというさめた境地
- ② 写真家特有の実験的な観点によって、被写体の自己像を完全に写し取ろうとする努力の気持ち
- ③ 鑑賞者と被写体とのあいだにたつて、それぞれの要求がことなることのジレンマを感じる苦悩
- ④ 世界の真の姿を知ってしまった上は、写真ではそれを完全に捉えられないという苦痛の感情
- ⑤ 被写体の願望に忠実に撮影しようとするあまり、撮影に気持ちが集中しなくなってしまうという矛盾した心情

問四 傍線部d「二回的に遠ざけ」とあるが、どういう意味か。最適なものをお次の①～⑤から選り、その記号をマークせよ。解答欄番号は11。

- ① 昔撮影した人物などが今ははるかに成長している。
- ② 撮影するたびにフィルムに化学的な処理をする。
- ③ 一度撮影した場所には二度と行けないと思う。
- ④ 写真はしよせん過去の画像に過ぎないと感じる。
- ⑤ 二度と再撮影の機会を得ることができないようにする。

問五 傍線部e「殆どパロディ」とあるが、どういう意味で「パロディ」なのか。最適なものをお次の①～⑤から選り、その記号をマークせよ。解答欄番号は12。

- ① 写真機の形が大きく変わってしまったて、その能力が大きく向上した点によって
- ② デジタル写真が中心になるにつれ、風景写真が本来だった写真の意味が変わってしまったから
- ③ 写真が本来持っていた重要な要素が過去とはまるで反対になってしまったから
- ④ 百年以上続いてきた写真の歴史が短い間に書き換えられてしまったから
- ⑤ アナログからデジタルへという流れが、世の中全般の動きと合致しているため

問六 傍線部f「アンタツチャブルな領域」とあるが、どういう意味か。最適なものをお次の①～⑤から選り、その記号をマークせよ。解答欄番号は13。

- ① 同一被写体へのシャッターの切り直し
- ② シャッターチャンスを見逃すこと
- ③ カメラと被写体との緊張関係
- ④ 撮影者が被写体を直接に見ること
- ⑤ カメラの性能によらない高品位の画像

問七 傍線部 g「誤って」には傍点が付けられているが、これはどういう理由での傍点か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **14**。

- ① 真実の姿とはまったく異なる画像となってしまうことを、この文脈の中で強調して表すため
- ② 本来は決して誤りということはないが、結果を見て不本意なものを「誤り」であるかのように表現しているため
- ③ 「ありのまま」という言葉と対照的な状態にある言葉であることを示し、その意味を明確化するため
- ④ メモリーカードの書き込みにエラーがあつて、正しい画像が記録されないことについて示したかったため
- ⑤ シャッター回数の増加が、誤りの発生の主たる原因であることを特に述べたいため

問八 傍線部 h「消すことは疎か」とあるが、この文脈ではどういう意味か。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **15**。

- ① 消すことはとても難しい課題だが
- ② 消すことはあえて言えば可能だが
- ③ 消すことはめつたにない行為だが
- ④ 消すことはなんとしても愚かしい行いだ
- ⑤ 消すことは言うまでもなく可能だが

問九 文中の「ア」翻って」に読み仮名をつけ、「イ」「ザ」「コ」を漢字にせよ。解答用紙(その1)を使用。

三 以下の文章は社会を五つの型に分類した論からの抜粋であり、日本の伝統的社会のあり方をヒントにして作成された類型について書かれている箇所である。各人の資格等の相違はあるものの、この社会においては、「その場にいる」ことがその社会集団の成員となるための条件であると筆者は述べる。これを読んで後の問に答えよ。

「場」の原則による社会集団においては、自分を取り巻くさまざまな人々の多様なあり方をそのままに認識して、それらに自分の論理に従って一つ一つ対応することには、自ずと限界がある。他者の多様なあり方に論理的・理性的に対応しようとするときには、大きな困難が伴うからである。他者について肯定的に対応できる場合は自ずと限られており、否定的な対応が帰結すべきような場合にはそれを表明することは抑制されている。しかも同じ集団にありながら対立的になりかねないような者から遠ざかることも、これは「場」から退くことを意味するのであるから、避けなければならない。

したがって多くの場合において「耐える」「忍ぶ」ということ以外に選択の余地がなくなってしまう。肯定的な関係を維持するために、耐え難い他者に耐えねばならない。全体の「A」のためにひたすら「忍ぶ」ことが求められることになる。

しかし、忍耐力にも限度がある。耐えられないことは、やはり耐えられない。言い換えれば、こうした人間関係は他者との対立を前提とする論理的ないし理性的なレベルでの処理によつては維持することが困難であるということになる。とすれば、耐えるということが必要にならないように、状況への対処のあり方を変更するしかない。論理的ないし理性的な局面での諸問題を無視して他者を肯定的に評価できるようにしなければよいのである。他者との対立を前提とするような立場からは他者との相違をすべて肯定的に評価できないのであれば、他者との対立を前提としない立場に立つことができればよいことになる。

それは、他者は対立するものではないと前提する立場であり、つまり自分と他者は「一体」であるとする立場である。それは「私」が「あなた」と対立することを前提とする立場ではなく、「私」は実は「あなた」と一体だ、つまり「私」も「あなた」も実は「私たち」だとする立場である。

こうした立場においては「私」は「あなた」に対立する「私」ではなく、「あなた」の「あなた」になろうとする。「あなた」が、「私た

ち」の一員としての「私」にどのようなようであることを望むかを見極めて、そのようになろうと努力をすることになる。

それでも軌轢<sup>ウ</sup>は生じるかもしれない。しかしそれは「あなた」が「私」の論理に従わないことに理由があるのではない。「私たち」全体の問題であると見なされねばならない。成員のあり方については常に肯定的な評価を与えられねばならない。誰もが「良い人」である。つまり「私たち」になろうとしている。そして必ずしも完璧にはならない結果よりも、「私たち」になろうとする各人の努力、あるいはそうした努力をしようとする内面的態度が評価される。誰もが「生懸命やっている」。

「場」という外的な強い枠組みを越えることができないという客観的現実を成員が受け入れなければならないために、成員間の対立的な関係が基本的に存在し得ず、全体が一体でなければならなくなり、その状況が内面化<sup>エ</sup>されている。全体が一体であるという現実、全体が一つを成しているという内面的な感覚ないしカクシン<sup>オ</sup>においても存在している。しかしこの「私たち」という関係は、成員各人が自分の自由や好みによって選択するのではなく、社会の「場」の原則によって強制される。ここには「個人の自立や自由の存在する余地がない」。

しかし社会集団のこうしたあり方が、成員たちにとって苦しいものであるばかりとは限らない。「場」の原則による社会集団は成員の生活全体の枠になっている。

「いつも一緒」でなければならぬのだから、ある者が自分の集団以外の集団に同時に属するということは不可能である。とすれば、自分の集団で生活の必要の一部分しか満たされないのでは不都合である。各成員の生活におけるすべての必要が、この集団の「場」の枠内で満足されなければならない。そして自分の集団で自分の生活におけるすべての必要が満たされるのならば、他の集団に属する必要もなくなってしまう。したがってこのようなタイプの社会における各人の集団への帰属は一義的で単純である。この「帰属の一義性<sup>カ</sup>」は社会的に強制されたものでもあり、また各人の生活において必要な論理の自然な帰結でもある。

自分の集団から出ること、自分の生活手段をすべて失うことを意味する。したがって自分の集団から出されることは何としても避けねばならない。また、ある集団から追い出された者は、「場」の原則を守らなかつた者と見なされるので、このタイプの社会における他の集団に入れてもらうことがたいへん難しくなる。その者がどんなに優れた能力を持っていたとしても、他の集団から

はなかなか受け入れてもらえない。成員は自分が一旦属した集団に一生帰属していなければならぬ。

しかし集団への帰属が一義的であるということは、ある集団の成員であるという事態が続きさえすれば、あとは自動的に生活全体が成り立っていくことを意味する。一度一つの集団に属してしまえば、死ぬまで自分の生活のすべての必要が満たされる。

「場」の原則による社会集団は成員にとって B のようなものであると言ふこともできることになる。複雑な社会関係を絶えず制御していかなければ生活が成り立たないような状況に比べると、たいへん負担の少ない生活が約束されていると言ふことができる。

したがって各人にとって大切なのは、どの集団の成員になるかであり、そしてすでに何らかの集団の成員ならばその状態を維持することである。

(加藤隆『武器としての社会類型論』による)

問一 傍線部A「耐える」「忍ぶ」ということ以外に選択の余地がなくなってしまう」のはどうしてか、理由として最適なものを次の

①、⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 16。

- ① 他者に対して自分の論理を表明することは抑制されているから
- ② 他者を自分の論理に従って、肯定することには努力が必要であるから
- ③ 他者への否定的な対応は自身への他者の対応としてそのまま返ってくるから
- ④ 他者と対立することも、対立を避けることも、集団からの退出につながるから
- ⑤ 「場」には様々な人々が多様なあり方で自分を取り巻いているから

問一 空欄

A

には漢字一字が入る。最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **17**。

① 利

② 和

③ 生

④ 真

⑤ 義

問三 傍線部イ「他者との対立を前提としない立場」とはどういう立場か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマーク

せよ。解答欄番号は **18**。

① 「私」も「あなた」も互いに独立独歩で干渉しないという立場

② 「私」も「あなた」も互いに以心伝心でわかりあえるという立場

③ 「私」も「あなた」も互いが望むままに、互いに盲従するという立場

④ 「私」も「あなた」も「私たち」としてすべきことをするという立場

⑤ 「私」も「あなた」も「私たち」として個人の論理は妥協するという立場

問四 傍線部ウ「軋轢」の読みは何か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は **19**。

① へきれき

② かくしつ

③ あつれき

④ かくらん

⑤ れいらく



問五 傍線部「その状況が内面化されている」とはどのような意味か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は20。

- ① 成員全体が一体でなければならぬという強制が、成員の内面を抑圧しているという意味
  - ② 成員全体が一体になるために、成員各人が良い結果を出そうと内面では努力しているという意味
  - ③ 成員間に対立的な関係が存在しないように、常に互いの内面を肯定し合うことが評価されているという意味
  - ④ 成員全体の一体としての関係を保つために、互いに完璧を目指さず、内面で折り合いをつけているという意味
  - ⑤ 成員全体が一体であるという関係が、「私たち」になろうとする内面的態度の評価のあり方に反映されているという意味
- 問六 傍線部「カクシン」を漢字に直すとどうなるか、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号

- は21。
- ① 核心
  - ② 確信
  - ③ 革新
  - ④ 隔心
  - ⑤ 革進

問七 傍線部「帰属の一義性」とはどのような意味か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は22。

- ① 自分の集団内では生活の一部分しか満たされないという意味
- ② 成員が自分の帰属する集団を一つだけ選択できるという意味
- ③ 自分の集団以外の集団に同時に属することはできないという意味
- ④ 成員が自分の集団に一つの意義を見出して帰属しているという意味
- ⑤ 自分の集団にだけ帰属していれば一通りの生活は送れるという意味

問八 傍線部キ「その者がどんなに優れた能力を持っていても、他の集団からはなかなか受け入れてもらえない」とはどうしてか、その理由として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 23。

- ① 優れた能力を持っている者は、このタイプの社会には適合しないと排除されるから
- ② すべてを失った者に、他の集団で以前と同様の生活手段を与えることは難しいから
- ③ 優れた能力を持っている者は、この社会の集団に帰属しなくても生活していけるから
- ④ ある集団を追い出された者は、他の集団でも「場」の原則を守らないと考えられるから
- ⑤ 優れた能力を持っている者は、完璧な結果を出せなければ「場」に帰属できないから

問九 空欄 B に当てはまる語は何か、最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 24。

- ① 天国
- ② 戦場
- ③ 地獄
- ④ 職場
- ⑤ 学校

問十 筆者は本文で述べるこの社会類型を「C 共同体」と名付けている。空欄 C には本文中で用いられた熟語が

入る。当てはまる熟語として最適なものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。解答欄番号は 25。

- ① 帰属
- ② 個人
- ③ 全体
- ④ 集団
- ⑤ 状況

問十一 本文の内容と合致するものを次の①～⑤から選び、その記号をマークせよ。 解答欄番号は 26。

- ① この社会の集団の成員となるための条件は個人の才能の優劣ではない。
- ② この社会の集団の成員は、みな善人であると評価されなくてはいけない。
- ③ この社会の集団の成員であり続けることは生活面でも理性面でも難しい。
- ④ この社会ではどんなに才能を磨いても認められず、何の意味も持たない。
- ⑤ この社会においては成員全体が一体となった家族のような関係にある。









